

国境を越える経済、国境を越え
る政治

前回の復習と積み残し

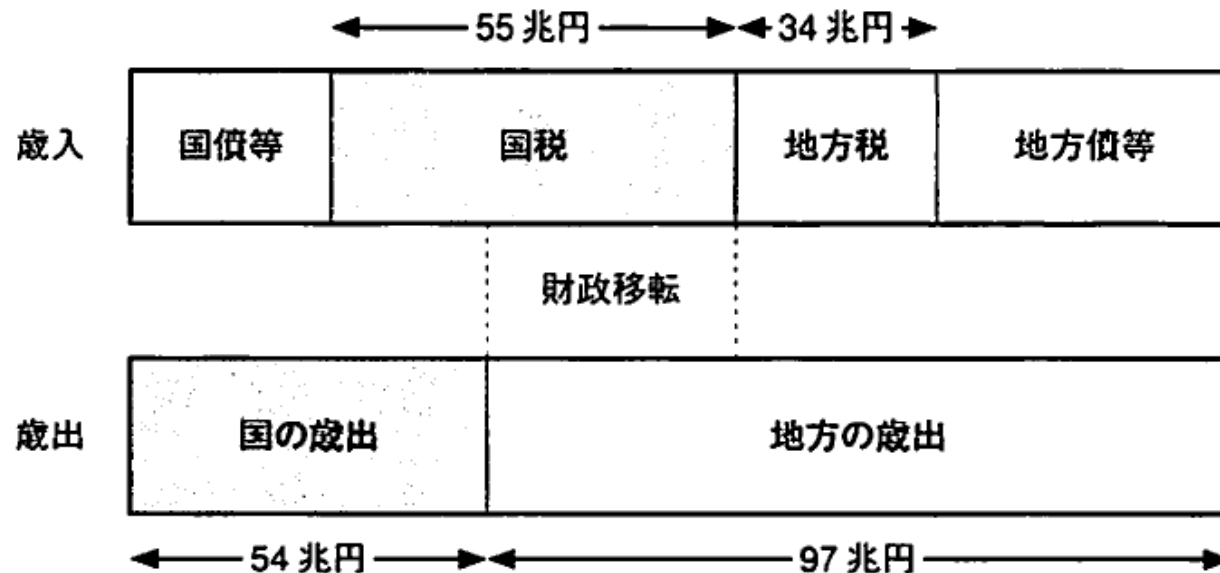
帰結：日本

- 足による投票？
- 地方政府間における地方税率の違い
 - 事業税率優遇（企業）
 - 画一的な地方税制（住民税）
- 福祉の磁石論？
 - 保育所と足による投票
 - 市町村による福祉サービス供給
- 人口数という「信仰」（曾我『日本の地方政府』）
- 3割自治再論 財政移転

3割自治？

FIGURE

○中央地方の財政関係



$$34\text{兆円} \div (55\text{兆円} + 34\text{兆円}) = 0.38$$

$$34\text{兆円} \div 97\text{兆円} = 0.38$$

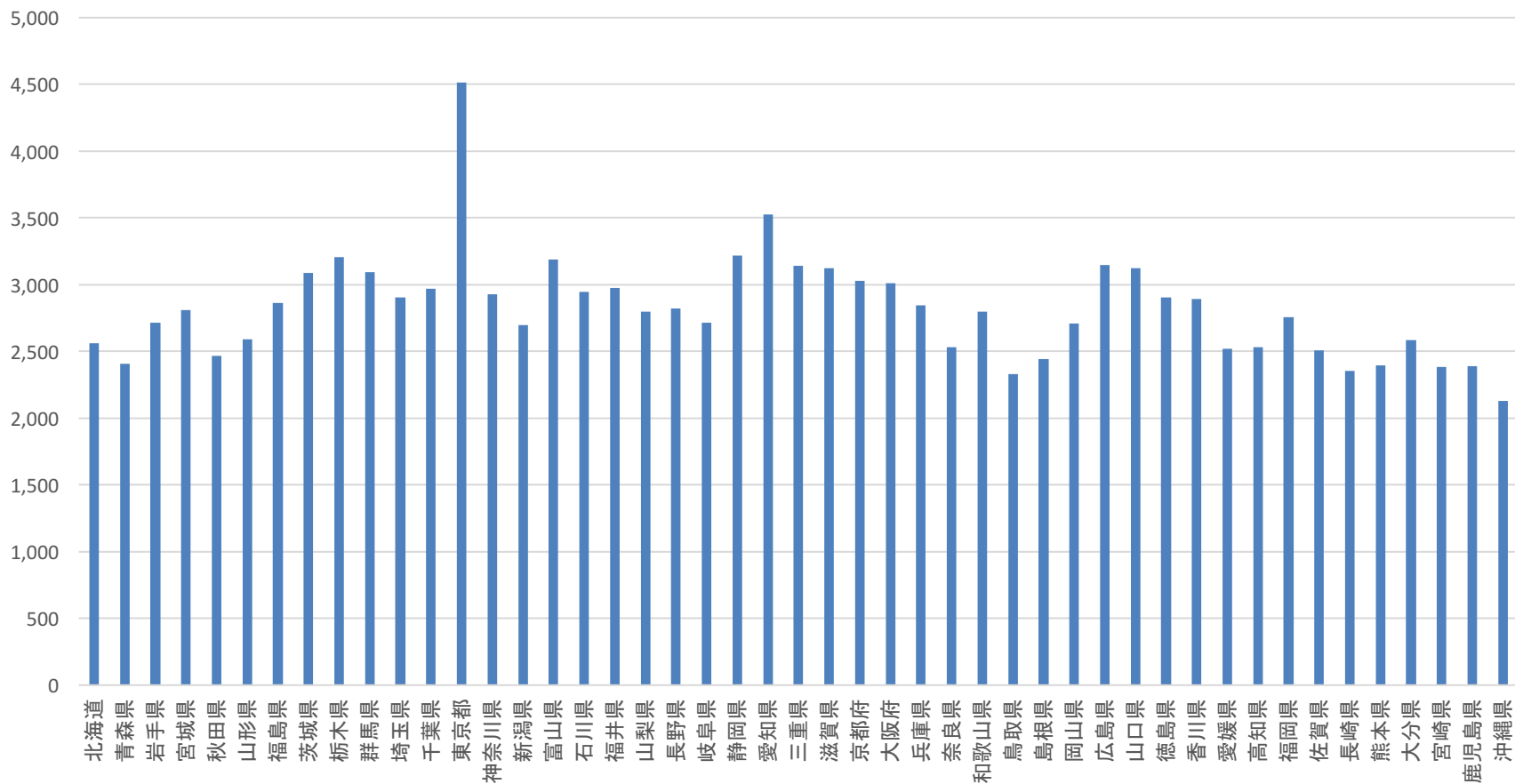
1995年データ

『政治学』252頁

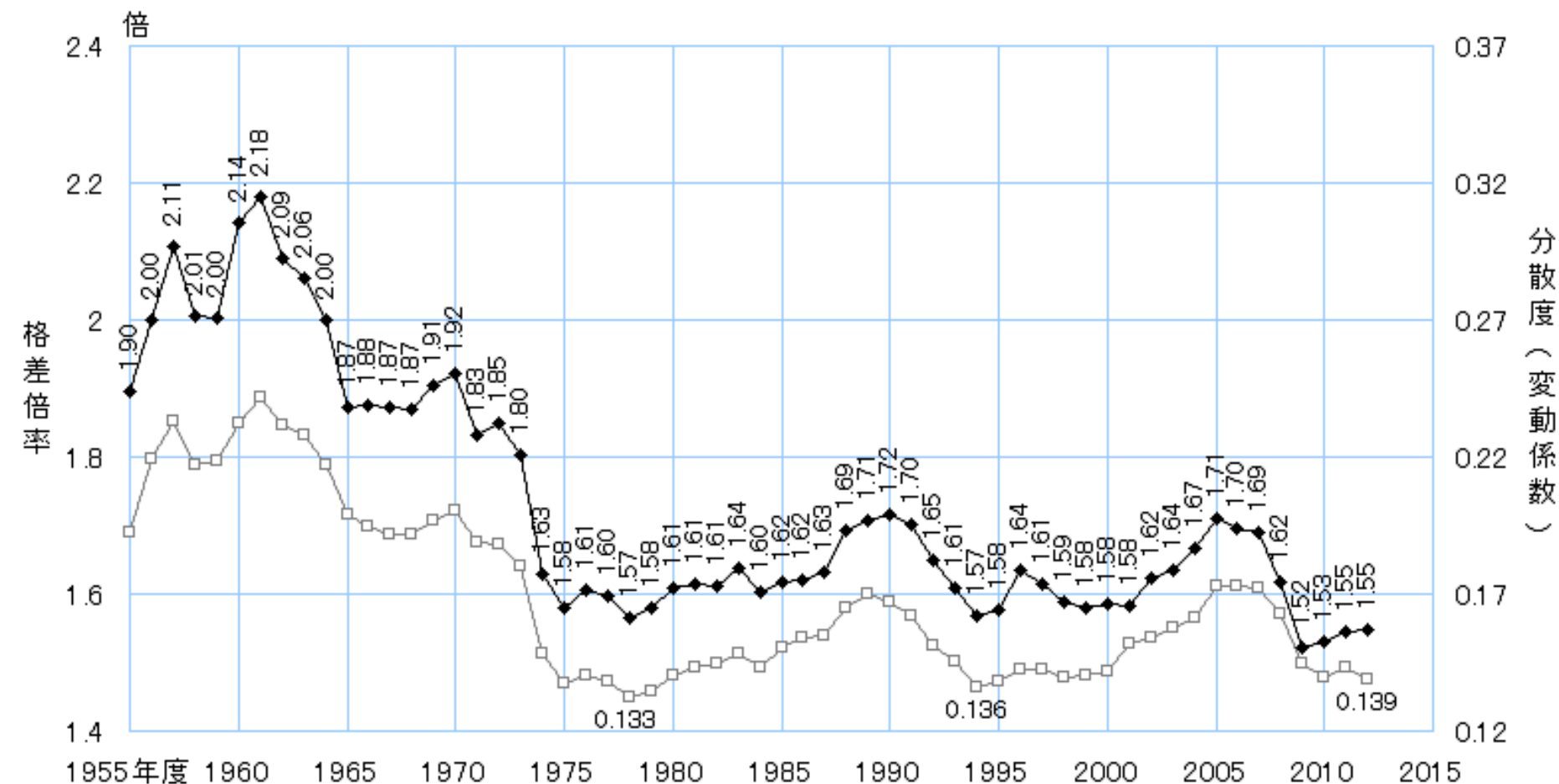
地域間格差と地方財政

- 地域間経済格差
- 格差是正策
 - 財政調整機能(再分配)
 - 財源保障機能
- 国から地方への財政移転
 - 国庫支出金＝補助金
 - 地方交付税交付金
- モラルハザード問題

一人あたり県民所得 2014年



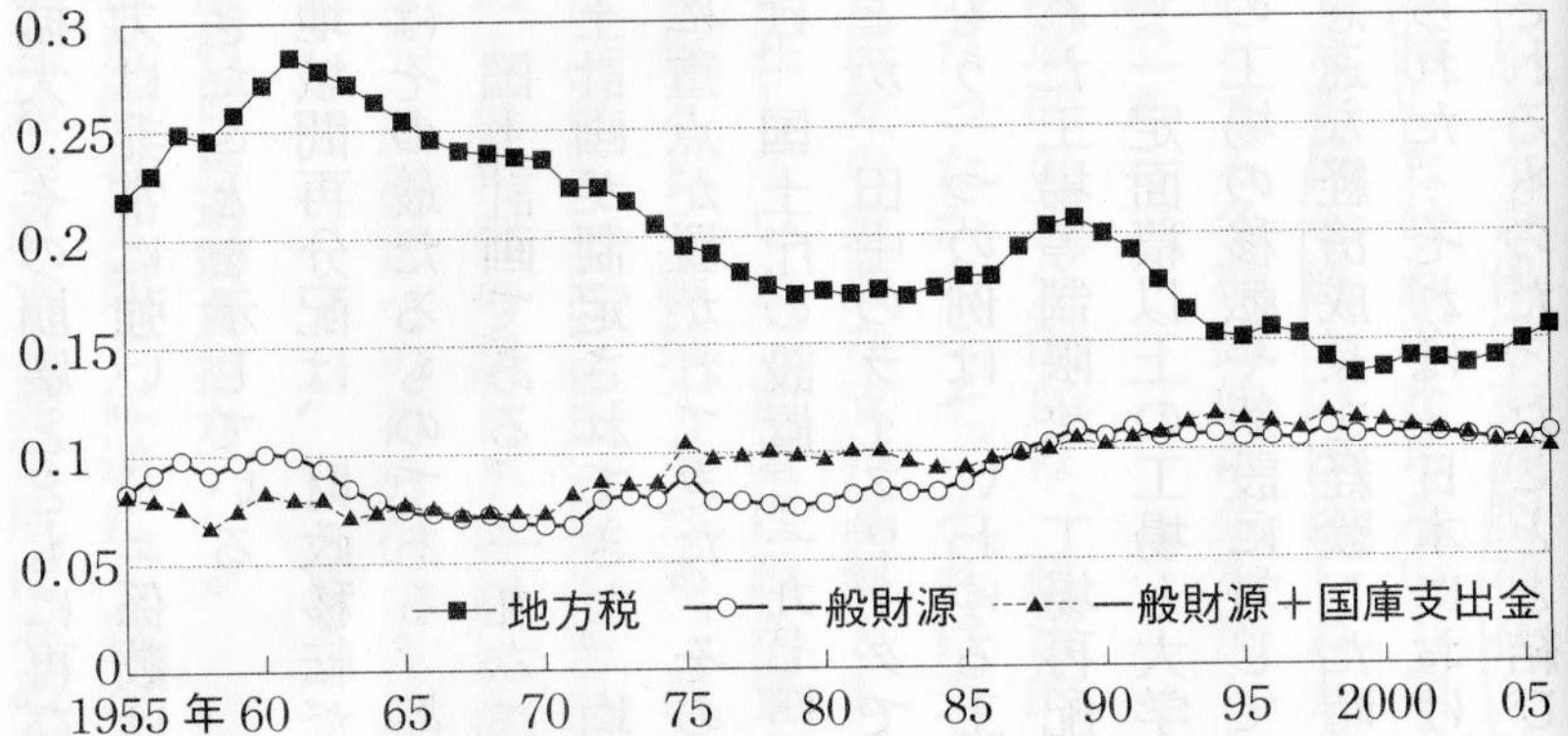
地域間所得格差の推移(1人当たり県民所得の上位5県平均と下位5県平均の格差)



(資料)内閣府HP「県民経済計算旧基準計数」、2001年度以降「平成24年度県民経済計算」

(資料)社会実情データ図録<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/7450.html>
2017/7/5アクセス

5-1 地方交付税による再分配効果



註記：値はいずれも都道府県を単位とし，都道府県と其中的市町村を併せた額を人口で割ったうえで算出したジニ係数．地方税は都道府県税と市町村税の合計，一般財源は地方税に地方譲与税と地方交付税を加えたもの
 出典：土居，2010：図12-2

日本における分権改革

- 第1次地方分権改革
 - 地方分権一括法(1999年)
 - 機関委任事務から法定受託事務へ
 - 国と地方の対等な関係

日本における分権改革

- 小泉内閣における三位一体改革
 - 地方税割合増
 - 地方への補助金縮減
 - 地方交付税見直し
- 財源面での分離型へ

日本における分権改革

- 第2次地方分権改革（2006年～）
 - 地方への権限移譲
 - 権限面での分離型へ
- 分離型地方自治の課題
 - 地域の自立と自己責任
 - 格差是正と地方活性化
 - NIMBY Not In My Backyard 沖縄基地問題・原発立地

メニュー

- 自由貿易と政治の関係
- 比較優位原則
- 自由貿易がもたらす勝者と敗者
- 自由貿易をめぐる政治過程
- 貿易交渉と2レベルゲーム
- 国際システムと国際制度の役割
- モノからヒト、そしてカネの移動

自由な取引

- A あなたは人々が自由に取引をすることは望ましいと思いますか？
- B あなたは国と国の間で自由に取引が行われる自由貿易は望ましいと思いますか？
- 1) どちらも望ましい
- 2) Aのみ
- 3) Bのみ
- 4) どちらも望ましくない

貿易の利益

絶対優位

	労働者数	車一台あたり必要労働者数	コメ1トンあたり必要労働者数	鎖国状態	自由貿易
J国	2000人	2人	4人	車 500台 (1000人) コメ 250t (1000人)	車 1000台 (2000人)
A国	5000人	10人	2人	車 300台 (3000人) コメ 1000t (2000人)	コメ 2500t (5000人)

	労働者数	車一台あたり必要労働者数	コメ1トンあたり必要労働者数
A国	2000	2	4
J国	5000	10	5

比較優位原則

	労働者数	車一台あたり必要労働者数	コメ1トンあたり必要労働者数	鎖国状態	自由貿易
A国	2000人	2人	4人	車 500台 (1000人) コメ 250t (1000人)	車 1000台 (2000人)
J国	5000人	10人	5人	車 300台 (3000人) コメ 400t (2000人)	コメ 1000t (5000人)

自由貿易の望ましさ

- 比較優位と特化
- 分業と取引
- 取引の利益
- 自由貿易への反発

TPPと「国益」

- 安倍首相は、衆参両院農林水産委員会がコメなど重要5分野の保護を求めた決議に触れて「決議をしっかりと受け止め、国益を守るための交渉を続ける決意だ」とした(2014年2月27日『日経新聞』)。



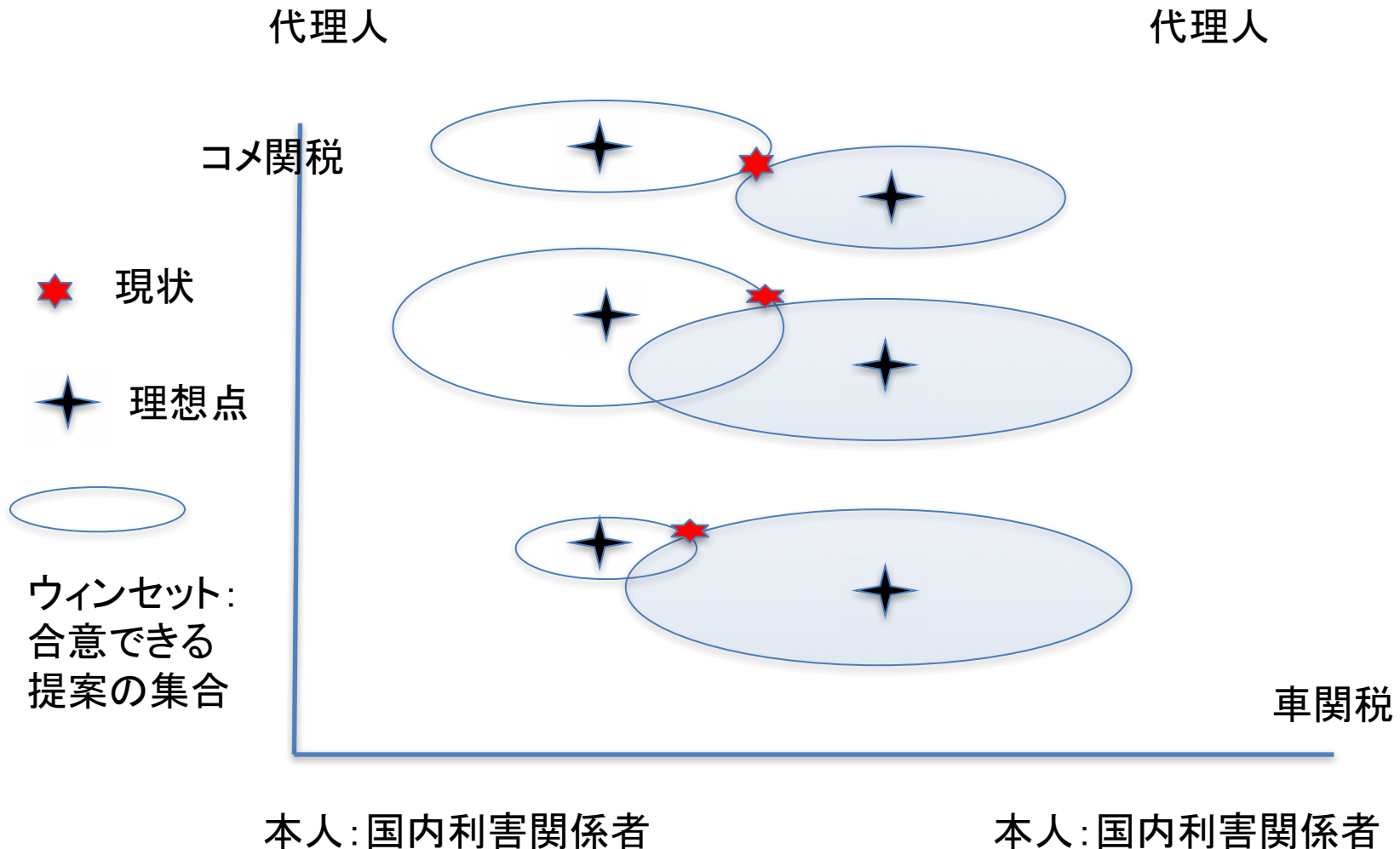
損する人、得する人

- 自由貿易のもたらす損得（ストルパー・サミュエルソン理論）
 - 豊富な生産要素、希少な生産要素
 - 労働者が希少で、資本が豊富な国
 - 資本が希少で、労働者が豊富な国
- 自由貿易は豊富な生産要素を持つ人を勝者にする
- 産業構造変化・特化のコスト
 - 転職、引っ越し・・・
 - 労働者も資本家も、輸入と競争する産業では大変？

輸入競合産業と輸出産業

- 産業セクターごとに勝者と敗者が別れる
- 競争力のないセクターが敗者になる
 - リカルド・ヴァイナー・モデル
- レントを守りたい産業
 - 鉄の三角同盟を思いだそう
- 自由貿易と消費者の利益
- ただ乗り問題と業界保護・少数の優位
- 少数の優位の限界

2レベルゲームと貿易交渉



自由貿易交渉を進める要因

- 囚人のジレンマ状況
 - お互い裏切って保護主義に
- 覇権国家と自由貿易
 - イギリスとアメリカ
 - 裏切りをおさえる力と覇権国としての利益
- 国際制度
 - GATTやWTO
- 民主主義国
 - 中位投票者としての消費者
 - 信頼できる決定
 - 民主的手続の必要は裏切りを困難に

グローバル化

- モノの移動
- ヒトの移動
 - 国家とは何か
 - Identity Politics
- カネの移動
 - 投機的取引と金融危機？
- 国境を越える経済、国境の残る政治

補論：リスクヘッジ

- 現在1ドル=100円
- 3ヶ月後に1ドル=80円を予想
 - 3ヶ月後に返す約束で100ドル借りてすぐ売る
 - 手元に1万円
 - 3ヶ月後に8000円で100ドルを買い、返却。
- 3ヶ月後に1ドル=120円を予想
 - 3ヶ月後に100ドルを買う約束をして1万円払う
 - 3ヶ月後に100ドルを入手すると1.2万円